

G 2 グループ研究のまとめ

○テーマ 「基礎・基本の確実な定着を図るための指導方法の改善」

(1) 重点目標と具体的授業実践

①個に応じたきめ細かな指導方法の提案と検証について

G 2での実態把握のため

・G2グループの特徴として、理解度の格差が挙げられる。実態把握をしっかりと行い、個に応じた支援をしていくことが大切になる。レディネスを基に座席を決め、座席表を活用したことで、考えや理解の変化を蓄積していくことができ、子供達の実態把握に役立った。しかし、毎日全員分のメモを取ることが困難なため、単元を通して全員分が書けるようにするなど、長期的なスパンの計画や学習支援ボランティアの協力などを得て実践していくなどの工夫が必要である。

個に応じた支援のために

・特に差が出る習熟場面では、理解の早い子は、発展問題を解くことや、丸付けを自分でおこない、間違いについて考えるなど、自分から考えるということで力を伸ばすことができた。理解の遅い子に対しては、教師が支援することが有効であった。
・問題を何度も繰り返しおこなうことで理解の定着がはかれる。また、「できる喜び」から意欲も出てくるのがこのグループの特徴である。そのため、始めは時間がかかるが、続けていくことで成果があがる。このことから、5年生での実践ででてきた3色の色分けなど、学年ごとの系統性を大切にした取り組みなどの、全学年の共通理解のもとに進めていく柱などの工夫が必要になる。

②個を生かす評価の工夫について

・G2グループは、基礎基本の確実な定着をはかるため、基本は教科書でした。教科書の数字をより簡単にしたり、教具を工夫したり、具体物や半具体物を操作して、理解出来るように進めていった。
・定着するために、補充プリントをとり組ませた。また、学習理解の早い子には特別問題を出し、理解に時間のかかる子には個別指導することができた。

③「グループの習熟度に応じた指導計画の作成」について

・授業後の感想を書かせて、意欲、関心、態度の評価に役立てた。
・座席表などを使って、机間指導をすることで、個々の問題の解決法を把握し、一人一人が理解できるように支援することができた。
・プリントやテスト、ノート、発表について記録し、累積することで、個々の考え方や発想を評価し、次時の指導につなげることができた。

④スキル学習の取り組みについて

・スキルの年間計画を基に、グループの実態に合ったプリントを選びながらスキルを進めてきた。児童の実態に応じて問題を調整することが大事であり、オリジナルスキルは難易度や問題数を調整するのに適当であった。
・スキルの年間計画を作ったことで、スキルの効果が学習内容により生かされた。
・プリントをA4版からB5版に印刷することで、問題全体が視野に入りやすかったり、書く文字が小さくてすんだりするので速く解けることが分かった。

⑤ その他

- ・個人差の幅が広いG 2 グループである。課題を早く済ませた子どもたちへの丸付け（ボランティア）と、支援を必要としている子どもたちへの個別指導（教師）と分担して対応することができた。
- ・2人で丸付けをすることで、子どもたちのつまずきや未定着部分を早く発見し対応したり、できている子には次の課題へ取り組ませたりして定着を高めることができた。また、このことを生かして、次の授業のねらいや組み立てを考えるのにつなげていくことができた。
- ・ボランティアさんの声かけを励みに頑張ろうとする子どももみられた。

（２）今年度の成果

単元に入る前にレディネス調査を実施し、前提条件を整えたうえで授業展開を行った。そのことにより、授業の中で、既習の差による個別の対応の時間が減り、スムーズに展開させることができた。

自己採点の導入により、表現処理のはやい児童に対しても、量的、質的な内容に応じたスキルアップを図ることができた。また、遅い児童に対しても教師のかかわる時間の確保ができたため、個別に指導、支援することができた。

マス計算や各種プリントの記録（点数や所要時間）、蓄積（ファイリング）によって、自分自身の長所（得意としている分野）や短所（ケアレスミスの部分）などにも気づかせることができた。

同じタイプの問題の習熟を図ることにより、問題のパターンを認識し、見通しが持てるようになった。

問題の与え方として、実態に応じて、数字を簡単なものに置き換えたり、色分けしたりすることにより、題意を捉えやすくすることができた。

学習支援ボランティアとの連携を通して、時中の個々の実態把握や支援を的確に行うことができた。（個人差の大きいG 2 グループでは、学習支援ボランティアの存在は大きい）

（３）来年度へ向けての課題

○指導方法の共有化

- ・数直線、操作活動、発表、ノートなどの学年ごとの段階に応じた学校独自の指導方法、指導手順の見直し。
- ・指導計画と合わせた教具の学年別一覧の作成。

○プリントの開発・改善

- ・スキルの差に応じたプリントの開発・改善。
- ・自己採点がスムーズに展開させられるプリントの開発・改善。

○学習支援ボランティアの活用

- ・児童のプライバシー保護と人材の確保。
- ・学習支援ボランティアとの連携を通じた効果的な授業づくりの検証